

聴講歓迎・参加無料

令和 6 年度第 1 回シンビオ社会研究会講演会のご案内

～先端エネルギー科学への招待～

日時：令和5年 5 月 20 日(月) 15:00-17:30 (開場 14:45)

会場：宇治市五ヶ庄 京都大学宇治キャンパス本館会議室(N-571E)及び ZOOM による

交通：JR 奈良線黄檗駅または京阪宇治線黄檗駅下車 地図は・・・[こちら](#)

主催：NPO 法人 シンビオ社会研究会

共催：京都大学エネルギー理工学研究所ゼロエミッション (Ze) 研究拠点

協賛：日本保全学会西日本支部

趣旨

当会では先端エネルギー科学への一般社会や若い世代の関心を高めるためのパブリックアウトリーチ活動に取り組んでおりますが、このたび「福島第一原発事故の検証」と「ナノ炭素物質」をキーワードに、下記のとおり、令和 6 年度第 1 回シンビオ講演会の開催を企画しましたのでご案内します。遠隔オンライン参加も可能な ZOOM によるハイブリッド講演会としましたので、多数の皆様のご参加をお待ちしています。

(講演会世話人) 理事：森下 和功、吉川 暹

～プログラム～

★開会の辞 15:00～15:05

シンビオ社会研究会 会長 吉川 榮和理事

★講演 1：15:05～16:05 (講演 50 分 質疑 10 分)

司会：森下 和功 理事

講演題目：「福島第一原発事故と検証報道」

講師：NHK 山口放送局ニュースデスク 岡本 賢一郎 (おかもと けんいちろう) 氏

略歴：香川県高松市出身。2002 年一橋大学社会学部卒業、2004 年東京大学大学院新領域創成科学研究科修了。学部の卒業論文で青森県六ヶ所村の核燃料サイクル施設をめぐる政策史を研究テーマに選んだのを機に、大学院で『理転』(理系に転換することの若者言葉)し、高レベル放射性廃棄物の地層処分における構造材料について研究。

2004 年 NHK に入局。鳥取局、松江局、報道局・科学文化部、京都局の記者を経て、2021 年 11 月から現職。2010～2018 年に在籍した科学文化部では、福島第一原発事故の発生当日から取材に当たったほか、原子力政策やノーベル賞を担当。NHK スペシャル『メルトダウン』や『廃炉への道』シリーズの取材・制作を担当。2021 年 10 月から京都大学大学院博士後期課程に在籍。



2012 年第 67 回文化庁芸術祭大賞「NHK スペシャル メルトダウンⅡ 連鎖の真相」2013 年 第 39 回放送文化基金賞本賞「NHK スペシャル メルトダウンⅢ 原子炉“冷却”の死角」2016 年 第 42 回放送文化基金賞優秀賞「NHK スペシャル 原発メルトダウン 危機の 8 8 時間」2021 年 書籍「福島第一原発事故の『真実』」（講談社）日本原子力学会優秀活動賞および 2022 年 科学ジャーナリスト大賞

講演概要： 福島第一原発事故の発生から 13 年が経ち、この間に、さまざまな事象が徐々にわかってきた。当時、電源喪失で失われた原子炉の冷却機能に代わって消防車による注水が続けられたが、実際は原子炉に水はほとんど届いていなかった。また、十分な水を送れなかったことがかえって化学反応によって炉心熔融を進めてしまう。事故の連鎖のきっかけとなった 1 号機の冷却装置をめぐっても、1970 年代の運転開始以降、社会的な要因から設定変更が繰り返されてきたことも見えてきた。NHK の原発取材班の一員として、取り組んできた検証取材・報道の内容、それに今後の検証継続と教訓反映の必要性について紹介する。

発表資料・・・[こちら](#)

-----休憩 10 分-----

★講演 2：16:15～17:15（講演 50 分 質疑 10 分）

司会：吉川 暹 理事

講演題目：「ナノ炭素物質の量子物性を活用した新しい光・熱エネルギー変換技術の開拓」

講師：京都大学エネルギー理工学研究所・教授 宮内 雄平（みやうち ゆうへい）氏

略歴：神奈川県出身。平成 14 年に東京大学工学部を卒業後、平成 15 年 9 月に東京大学大学院工学系研究科で修士号、平成 18 年 9 月に同大学院工学系研究科で博士号（博士（工学））を取得。東京大学大学院工学系研究科、京都大学化学研究所、米国コロンビア大学 物理学科/電気電子工学科で博士研究員、京都大学エネルギー理工学研究所において JST さきがけ専任研究員、名古屋大学大学院理学研究科特任准教授を経て、平成 26 年 10 月より京都大学エネルギー理工学研究所 准教授、令和 3 年 4 月より同 教授（エネルギー機能変換研究部門 機能物性工学研究分野）。2023 年 島津奨励賞 島津科学技術振興財団、2016 年 文部科学大臣表彰 若手科学者賞、文部科学省、2014 年 平成 25 年度研究表彰 光科学技術研究振興財団。



講演概要： ナノ炭素物質は、二酸化炭素の高付加価値な固定先として近年注目を集めている。講師らはこれまで、代表的なナノ炭素物質であるカーボンナノチューブの熱的に堅牢な量子物性の解明と、優れた光・熱エネルギー変換技術の実現に繋がりうる新しい物質機能の探究を進めてきた。講演では、それら基礎研究の成果を土台として、高効率太陽熱利用を可能にする高温太陽光選択吸収技術や、熱光発電の高効率化を可能にする光エネルギースペクトル変換技術等の実現を目指す、講師らの研究の現状と課題についてご紹介する。

発表資料・・・[こちら](#)

★閉会の挨拶 17:15～17:20

会長 吉川 榮和理事